

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|-----------------------------------|---|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 11 | 現在事業所からの出席者は、代表者・管理者のみ | 一般職員も交替で出席し、内容について把握し、自らの意識度を高めていく。 | 運営推進会議に職員も交替で出席し、グループホームの生活状況報告を発表してもらう。会議で話された内容について、実践出来るようGH会議で話し合い職員の意欲を高めていく。 | 2ヶ月 |
| 2 | 35 | 併設された福祉施設には、非常食等があるが、GHには非常食等がない。 | GH独自で非常食・防寒用品などを準備する。 | ①非常食の購入をし、誰でもが持ち出せる場所に確保する。 ②家族に了解後、防寒用品・パットを持ちだしやすい場所に確保する。 | 4ヶ月 |
| 3 | 52 | フローア・居室に二重の鍵がしてある。 | 利用者様が自分の意志で開けられるよう、一か所だけの施錠にする。また、昼間は施錠しない。 | 評価翌日から、一か所だけの施錠になっている。昼間フローアも施錠無の暮らしに向け職員で話し合う。 | 2ヶ月 |
| 4 | 4 | 本人を取り巻く支援がすべての利用者様に来ていない。 | 入所前の馴染みの場所・人とのつながりを多くしていく。 | ①その人の生活歴を職員間で共有する。 ②その方の言葉を大切に、行きたい場所への支援・会いたい人への支援をする。 ③苦情処理の充実を職員間で話し合いながら、行っていく。 | 6ヶ月 |
| 5 | 2 | 特養と同じボランティアさんが多い | 避難訓練・ボランティア・特養とは別のつながりを強くしていく。 | ①散歩時地域の方と話せるよう全職員の意識を変える。 ②GH避難訓練協力者を積極的に地域役員と話し合いながら、増やしていく。 ③面会者など人とのつながりを多くしていく。 | 6ヶ月 |